

## 再評価結果（平成25年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

事業名：地域高規格道路 中九州横断道路 <small>おおのたけた</small> 一般国道57号 大野竹田道路	事業：一般国道 区分：	事業：国土交通省 主体：九州地方整備局			
起終点：起点：大分県 <small>ぶんご</small> 豊後大野市 <small>おおの</small> 大野町 <small>たなか</small> 田中 終点：大分県 <small>たけた</small> 竹田市 <small>あいあい</small> 大字会々	延長：	12.3km			
事業概要 国道57号大野竹田道路は、交通便利性の向上、地域間連携・交流を支援し、沿線地域の産業発展や地域活性化等に寄与する。					
H12年度着工準備	H一年度都市計画決定	H19年度用地着手	H19年度工事着手		
全体事業費	約323億円	事業進捗率	46%	供用済延長	- km
計画交通量	10,400～12,300台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体) 157/336億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 449/449億円	基準年 平成24年	
	(残事業)	事業費：129/309億円 維持管理費：27/27億円	走行時間短縮便益：338/338億円 走行経費減少便益：62/62億円 交通事故減少便益：50/50億円		
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.1～1.4(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.2～1.5(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.2～1.5(事業期間±20%) 【残事業】交通量：B/C=2.3～3.0(交通量 ±10%) 事業費：B/C=2.7～3.1(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=2.7～2.9(事業期間±20%)					
事業の効果等 ①地域産業の振興 ・ブランド牛の品質を維持する安定的な生体輸送を支援 ②観光産業の支援 ・広域観光圏相互の連携を支援し、観光周遊の可能性拡大による地域の観光振興に寄与 ③交通安全性の向上 ・並行現道区間における線形不良箇所の回避、交通事故の削減に寄与し交通安全性が向上 ④救急医療活動の支援 ・大分市内の第3次救急医療施設(アルメイダ病院、大分県立病院、大分大学医学部附属病院)からの60分圏域の拡大を支援 ・救急医療活動のアクセス時間の短縮 ⑤生活利便性や定住魅力の向上 ・大分市への時間距離の短縮により、生活利便性や定住魅力が向上					
関係する地方公共団体等の意見 竹田市をはじめとする関係3市の首長等で構成される中九州・地域高規格道路促進期成会等により、毎年早期整備の要望を受けている。(平成24年11月)					
県知事の意見： 早期整備を強く望んでいるところであり、事業の継続をお願いしたい。					
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 豊後大野市や竹田市の一世帯当たりの自動車保有台数は、大分県平均を大きく上回っており、通勤・通学時の自家用車の利用割合も約7割と自動車への依存度が高い。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成23年度末の事業進捗率は、事業費ベースで約46%であり、そのうち用地進捗率は約89%に達している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 地元や関係機関との協力体制のもと、平成26年度の大野IC～(仮)朝地IC間(L=6.3km)の部分供用に向け					

て、引き続き事業促進を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

- ・横断面構成の変更（中央分離帯の設置）による増加【約29億円増】
- ・地層の変化に伴う増加【約21億円増】
- ・埋蔵文化財発掘調査対象範囲等の変更による増加【約4億円増】
- ・横断水路から側溝排水への変更による減【約1億円】
- ・法枠吹付工法から長繊維混入補強土工法の採用による減【約2億円】

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上、事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。